

事業実績報告書

様式 2
(2020年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-33	講座名	NPO法人500万人の木曽川水トラスト
記載日	2021/3/20	団体名・企業名	木曽川がもたらす生物多様性の恵みに感謝し、水源の森で学び働く

〈講座全体の概要〉(300字程度)

昨年と同様に、10月に台風襲来で1か月ずつ順延しなければならなかった。さらに、コロナ禍で非常事態宣言が発せられて開催が危ぶまれたが、正月の餅つきを延ばすわけにもゆかず、参加者には無理して来なくてよいことを連絡したうえで、そのまま強行した。その結果、参加者は半減することになってしまった。

これらの困難が伴ったが、プログラム内容をほとんど変えることなく実施することができた。コロナを危惧して参加できなかった皆さんには、非常事態宣言解除後の4月以降の自主プログラムへのお誘いをした。4月は恒例の「春を味わう」と題して野草や山菜を食べる。



※写真1の説明

第1回(11月開催)作業小屋前で集合写真

※写真2の説明

第2回(12月開催)作業小屋前の集合写真、この日は焼いた炭でサンマを焼いて食べた

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

今期も、子供連れのファミリーの参加者が多かったが、昨年ほどではなかった。明らかにコロナ禍が影響していたと思われる。中高年参加者の中に、定年退職後に山村に移住を計画しているカップルがいた。山村暮らしの予備体験するための参加だということだった。若者2名(女子大学生)の参加があったのは明るい材料である。友人同士ではなく、別々の参加だった。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3～5点、計350字程度)

大人の参加者には、当法人が誕生した経緯、すなわち、御嵩町に計画された巨大産廃処分場反対運動や産廃処分場の是非に関する全国初の住民投票のこと、そもそも木曽川流域の上下流に存在する矛盾、不公平に関する座学を行ったが、高い評価を得た。座学の時間帯は、子供たちはトラストの森の探検をしてもらった。急な斜面をよじ登る冒険コースに大盛り上がりであった。次の機会には、子供を対象にした紙芝居なども考えてみたい。薪割、炭焼き、焼き芋、炭火焼きさんま、竹細工なども好評であった。

●団体紹介

団体所在地	〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付		
連絡担当者	大沼淳一	ウェブサイト	http://homepage3.nifty.com/mitake/
TEL	052-779-4291	FAX	052-779-4291
E-mail	nw4i-oonm@asahi-net.or.jp	携帯電話	
〈団体・企業の簡単な紹介・PR〉(150文字程度)			
岐阜県御嵩町に計画された巨大産業廃棄物処分場に反対して木曽川下流域500万人の生命の水を守るために結成された。御嵩町民が住民投票によって処分場を拒否した後は、上下流域住民交流の場として御嵩町内にトラストの森を購入し、民有林と町有林の森林整備活動を行ってきた。水源基金創設を目指すシンポジウムなども行ってきた。			

●講座開催情報

第一回	講座名	「木曽川流域の生物多様性を享受する下流域市民の責任」		開催日	11月14日	土
	講師名	大沼淳一・大沼章子	参加人数	17名		
	内容	午前中は森の中での座学。午後は、水源の森の散策と、広葉樹の除伐作業と炭焼きの材料の調達。最後に、炭焼き窯に材料を詰めた。薪割りが人気。				
第二回	講座名	炭焼き（１）		開催日	12月12日	土
	講師名	市村正也・小西和子	参加人数	17名		
	内容	炭焼き開始。火の番と煙の温度測定や色の観察。前に焼いておいた炭でサンマを焼いて食べる。竹の除伐を行い、サンマ用のトレイと箸を作製。				
第三回	講座名	町有林間伐現場見学と餅つき		開催日	1月9日	土
	講師名	市村正也・小西和子	参加人数	7名		
	内容	町有林でヒノキ伐倒の見学。午後は、築150年超の立派な農家での餅つき。昼食は搗いた餅のぜんざいとお雑煮。コロナ禍で参加者激減。				
第四回	講座名	炭焼き（２）		開催日	2月13日	土
	講師名	木亦信之・小西和子	参加人数	10名		
	内容	12月に焼いた炭の窯からの取りだし。薪割りが大人気。フィナーレの予定だった餅つきが先月終り、コロナ禍での2月の参加者はやはり少なかった。				
第五回	講座名			開催日		
	講師名		参加人数	名		
	内容					